１人１台端末の活用による実践事例

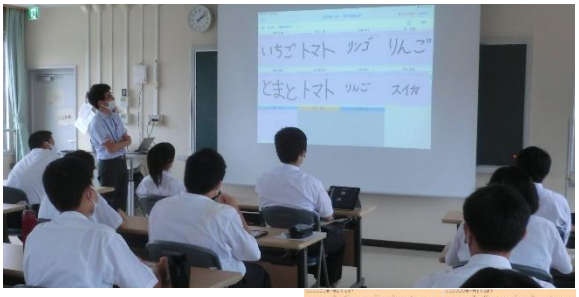
（特別支援学校）

学校名	岡山県立岡山瀬戸高等支援学校	実践者名	松下　直生
実践場面	１年　情報		
題材名	＜iPad の家庭持ち帰りのルールと方法について＞		
学習目標 ねらい	・　iPad を家に持ち帰る際のルールや流れを知り、家で Wi-Fi に接続したり、課題を作成・提出したりする方法を理解することができる。 ・　iPad　の機器の特徴や、学校や家で課題を作成・提出する際の注意点等を意識しながら機器を取り扱うことができる。		
対象生徒の 実態	１年生徒 40 名（１クラス８名×５クラス） 軽度知的障害（文章作成ソフト（Word）での文章作成は経験済み）		

活用の概要（使用アプリ名を含む）　※写真も掲載する

（１）本時の流れや、本日帰宅後の活動（課題）と明日朝の提出について知る。

・帰宅後の流れ（iPad の接続・課題の提出・アンケートの作成）
・注意点やルール等の確認
・Wi-Fi の接続方法、課題の内容と記入や提出方法の確認と練習
・アンケートの記入方法や、次の日のアンケートの提出方法について



（２）Wi-Fi 接続方法や、課題の記入と提出の練習をする。

・設定画面を開き、Wi-Fi 接続を確認する。
・ロイロノートを開き『１年〇組情報』でノートを作成する。
・配布されている課題（練習）を開き、記入して提出する。
　課題『〇〇と言えば？ クラスの友達が答えそうなものを１つ書こう』
・友達と自分の答えを見比べ、意見の一致や違いを知る。
・帰宅後に取り組む課題が配信されているのを確認して、iPad を閉じる。

活用のポイント・改善策等

・Wi-Fi 接続と課題提出の双方の活動で、手順の説明→実際にやってみる、という流れで行った。説明と同時進行で生徒が操作することもできたが、生徒が家で（一人で）の接続を考えての構成だった。その点では、接続方法を示した動画を作成していれば、事前練習も家での操作も、よりスムーズだったかもしれないと思った。
・ロイロノートでテキスト入力の際、手書きでペンの太さも指定した。提出物を一覧で見る際に見やすいようにとの配慮したことが効果的だった。
・KJ 法のように生徒が次々と意見を提出する活動は、ロイロノートや Jamboard など ICT 機器を活用して行うことができるが、タブレットでは全体を見るには小さく、拡大すると全体が見えなくなることや、生徒同士の関わりの点から考えると、あえて ICT 機器を活用するよりも、模造紙と付箋紙の方が活動がしやすい面もあると感じた。